



松本健宏展

松本健宏さんのアトリエは、京都府綾部市古屋の冬は雪深い限界集落にあります。いまも茅葺き屋根の家が残り、何百もの朽の木が群生する美しい風景に心を動かされ、墨の染絵「ヒビノクラシ」の制作がはじまりました。「ありったけの感覚を全開に」制作に向かい、十年かけて絵は拡大し、村人から教わった「慎ましく、遅く生きる人間の生命の力」を作品に染め込みました。この大作を含む染絵および人形作品を、このたび見附市ではじめてご紹介します。

ヒビノクラシ



松本健宏(まつもと たけひろ):1967年京都市生まれ。92年に京都精華大学テキスタイル科卒業後、インテリアデザイナーを経て、98年から6年間、丹後伊根の舟屋へ通い染色作品の連作を続ける。99年京展工芸部門京都市長賞、2006年日本新工芸展NHK会長賞受賞。10年から京都府綾部の「限界集落」古屋地区の民家を譲り受けてアトリエとし、京都市内の自宅から通い、山暮らしの都会暮らしを続ける。新潟では、新潟絵屋で2007・11・14・17年に個展開催。19年染・清流館で個展「蠟絵染・松本健宏展〜いのちの交響〜」開催。京都工芸美術作家協会会員。制作の根っこは「人間とは何か」にある。



作品/表面、上:「ヒビノクラシ」2009~2019年 絹、墨 200×1456cm 下:人形「薬化身」2017年



「道」(部分)2018年 絹、反応性染料 180×75cm

関連イベント1
ろうけつ
染めで
手拭いを
染める

2/23
[日・祝]
14:00-16:00

会場:ギャラリーみつけ・ぶらっとルーム

参加費:2,000円/定員15人

小学生以上~(小学1,2年生は保護者同伴)

申し込み方法:ギャラリーみつけへ

講師/松本健宏

はじめに熱して溶かしたろうで、白い綿布に模様を描きます。ろうで描いたところは染料が入らず、周りに色をぬることで白く染め抜かれます。染料で描く時は、にじみや色と色の溶け合いやぶつかり合いが起こり、ドラマチックな瞬間の連続です。制作後は作品をお預かりし、講師が京都のアトリエで処理をして、後日ギャラリーみつけでお渡しします。

*年齢に応じて、常温の着色防染剤ダックを使用することがあります

関連イベント1
ヒビノ
クラシ・
日々ニ
踊ル

2/23
18:00- [日・祝]
*およそ45分予定



撮影・風間忠雄

踊り/堀川久子

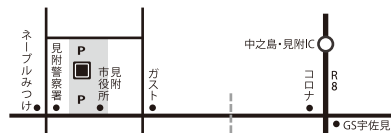
堀川久子(ほりかわ ひさこ):即興舞踊家。新潟市生まれ。20年間の舞踊家・田中浪との活動ののち、1998年より新潟市に活動拠点を移す。独舞を中心に、音楽家、美術家との共同作業、ワークショップなどをヨーロッパでも展開。知的障害を持つ人々とのワークショップも現在は9年目になった。各地の昔ながらの盆踊りを訪ね踊っている。93歳の母と暮らす。アートの無名性にどこまでも憧れている。

会場:ギャラリーみつけ展示室1

「ヒビノクラシ」前

参加無料/申し込みは不要です

直接ご来場ください



ギャラリーみつけ

954-0059 新潟県見附市昭和町2-4-1

0258-84-7755

<https://www.gallery-mitsuke.com/>